

## 薬学共用試験センター会務報告（平成26年1月）

2014-028 1月14日(火) 第5回試験実施関連委員会定例委員長・副委員長会議

出席者（敬称略）：

委員長・副委員長

奥 直人、石川さと子、石塚忠男、伊藤 喬、伊藤智夫、入江徹美、  
橋詰 勉、前田定秋、増野匡彦、宮崎 智、山口政俊

オブザーバー

丸岡 充、日下部吉男、菅原朋之（文部科学省）  
山元 弘（理事長）  
矢ノ下玲、原 博（事務局）

議題：

### 1. 平成25年度共用試験の実施状況

#### (1) CBT 実施について

- 1) 全国正答率分布および出題範囲別正答率の中間報告
- 2) トラブルおよびその対応について

#### (2) OSCE 実施について

本試験実施におけるトラブル報告と対応について

### 2. 広報委員会報告

(1) 日本薬学会第134年会（熊本市）における発表について。

(2) AASP Deans Forum(2014年月29日)において、以下の講演を行う。

Common Achievement Tests (CBT & OSCE) prior to Clinical Practice Rotations. (発表者：山元 弘)

(3) 第46回日本医学教育学会（2014年7月18～19日：和歌山市）での発表について。

(4) ホームページの英文化

英文化する項目の選別。

3. 改訂コアカリキュラムに対する薬学共用試験の対応について

平成 25 年 12 月 6 日に開催された全国薬科大学学長・学部長会議においてモデル・コアカリキュラム改訂に伴うセンターの担う役割について提案し、下記の項目について提案通り了承された旨の報告があった。

(1) CBT の全問題数

従来と同じく 310 問とする。

(2) CBT のゾーン毎の出題分野と問題数について

ゾーン 1 の分野を 5 問減らして、他の分野の問題数を増やす。

(3) CBT の出題範囲について

実務実習と薬学研究を除く全 SBOs を出題対象とする。

(4) OSCE の出題形式について

従来と同じく 5 領域 6 課題とする。

4. CBT 問題の組織的な収集について

ワーキンググループを立ち上げて迅速に調査し、対応する。

以上

## 1月27日(月) 薬学共用試験運用支援 2014年1月定例会議

### 出席者

システム検討委員会：宮崎 智、飯島史朗

事務局：矢ノ下玲、中嶋香織、原 博

富士通：プロジェクト担当者6名

情報科学テクノシステム：システム開発プロジェクト担当者2名

### 議題

1. 前回議事録確認
2. マスタースケジュール確認
3. 定例運用作業報告
4. QA対応報告
5. 依頼事項
6. 障害報告
7. その他 報告